



チーム りきごう

学校通信

10号 力合小学校

校長 岡崎 雄治

教育活動の振り返り

2月になりました。今月の行事予定表を見ると来年度入学予定の児童の保護者説明会や、今年度最後の授業参観、学級懇談会や送別遠足があります。もうそんな時期なんですね。

年度当初、学校ホームページに令和6年度学校経営方針をUPし保護者の皆様にもご覧いただいたことと思いますが、そこにあげた内容を具体的な教育活動として計画し、この1年間取り組んでまいりました。

私が子どもたちに行事や集会等で話をする時やこの学校だよりの記事を書くときは、経営方針に掲げた項目について取り上げるように意識してきました。できるだけ偏りがないように努めてきましたが、全ての項目を取り上げることはできていません。

先週までにお答えいただくようお知らせしていた学校評価アンケートでは、学校の取組について保護者様が気づかれた点をもとにご回答いただいたことと思います。今後、子どもたちや学校評議員の皆様、そしてわれわれ教職員のアンケート結果とあわせて分析をし、教育活動の改善を図っていくことにしております。アンケート結果は来月中には学校ホームページに掲載しますので、そちらもご覧ください。

今日は立春。昨日は子どもたちも豆をまいて心の中の「おに」退治をしたのでしょうか。ぴりっと気持ちも引き締まる冷たい空気の中にも、すこしずつ春へと近づく変化が感じ取れます。今後とも、より充実した学校生活を子どもたちに提供できるよう努めてまいります。



防災の意識

1月13日(成人の日)の夜の地震では、緊急地震速報のけたたましい音を聞き、とっさに家族と屋外へ出ました。みなさまのところはどうだったでしょうか。翌朝、登校してきた子どもたちが「校長先生、きのうはこわかった。」と話をしてくれました。

子どもたちが学校にいる時間帯にあのゆれがきたら…と思うと、マニュアル通りに指示できただろうか、それをもとに冷静で迅速な非難はできただろうかと自問しました。

先日、市内の小学校長会の研修で東日本大震災の時、東北の新聞社で働いていらっしゃった方のお話を聞きました。広く報道されているように、被害に遭い尊い人命が失われた小学校もあります。一方でなんとか避難して命が救われた学校もあります。お話によると、この違いは単に立地条件の違いだけではないようです。

日本中、全ての学校で危機管理マニュアルは作成されていることと思いますが、日常的に非難について話題にのぼることはあるかと思えば、先日のように地震があった後や定期的な避難訓練の前後ぐらいというところも少なくないのかもしれない。

講師の方がお話されたケースでは、垂直避難で屋上に逃げることに離れた高台まで走って非難する方法とマニュアルに併記してあった学校は、地元出身の先生のつぶやきから垂直避難、離れた場所への避難の両方について賛否が交わされていたのだそうです。はじめは垂直避難と決めていた校長の中で、職員の先生方と日常の会話の中でやり取りするうちに、離れた所へ非難するとその先地続きで次のところへ避難できるという考えが、頭の中を占める割合が少し高まってきていた矢先、あの大地震が起こります。その時の判断は…離れていても高台に逃げる…でした。その後、学校は波にのまれましたが、子どもと先生方は助かったのだそうです。

小学校では、子どもたち一人一人が判断してそれぞれ逃げるようにはしていませんし、それは難しいでしょう。であるからこそ、どう判断するかが子どもたちの命に直結します。校長としての責任を重く感じるとともに、マニュアルを作って安心するのではなく、平時からもしものときを話題に考えを言い合える職員集団で、子どもたちを守っていかねばならないと強く思った研修でした。

<2月の保健目標 >

心の健康についてかんがえよう

<2月の生活目標>

すみずみまで無言でそうじをがんばろう

Kumamoto Education Week2025のホームページから防災に関するコンテンツ動画「未来を拓く学校×防災」が視聴できます。